

三菱重工 × PFN：国産「ソブリン・フィジカルAI」による垂直統合の衝撃

三菱重工の物理ドメイン知識とPFNのAI技術が融合し、防衛・インフラの「技術主権」を確立する仕組みを解説する。

戦略的パートナーシップと資本の緊密性



MHI × PFN

100億円の資本投入とスピード提携

2026年6月の業務提携からわずか3カ月で資本提携へ至る、国家戦略的な迅速な意思決定。



「ソブリン・フィジカルAI」の確立

防衛や電力など、外資クラウドに依存できないミッションクリティカル領域での技術主権を確保。

グローバル防衛テックに対する独自の対抗軸



米Palantir等

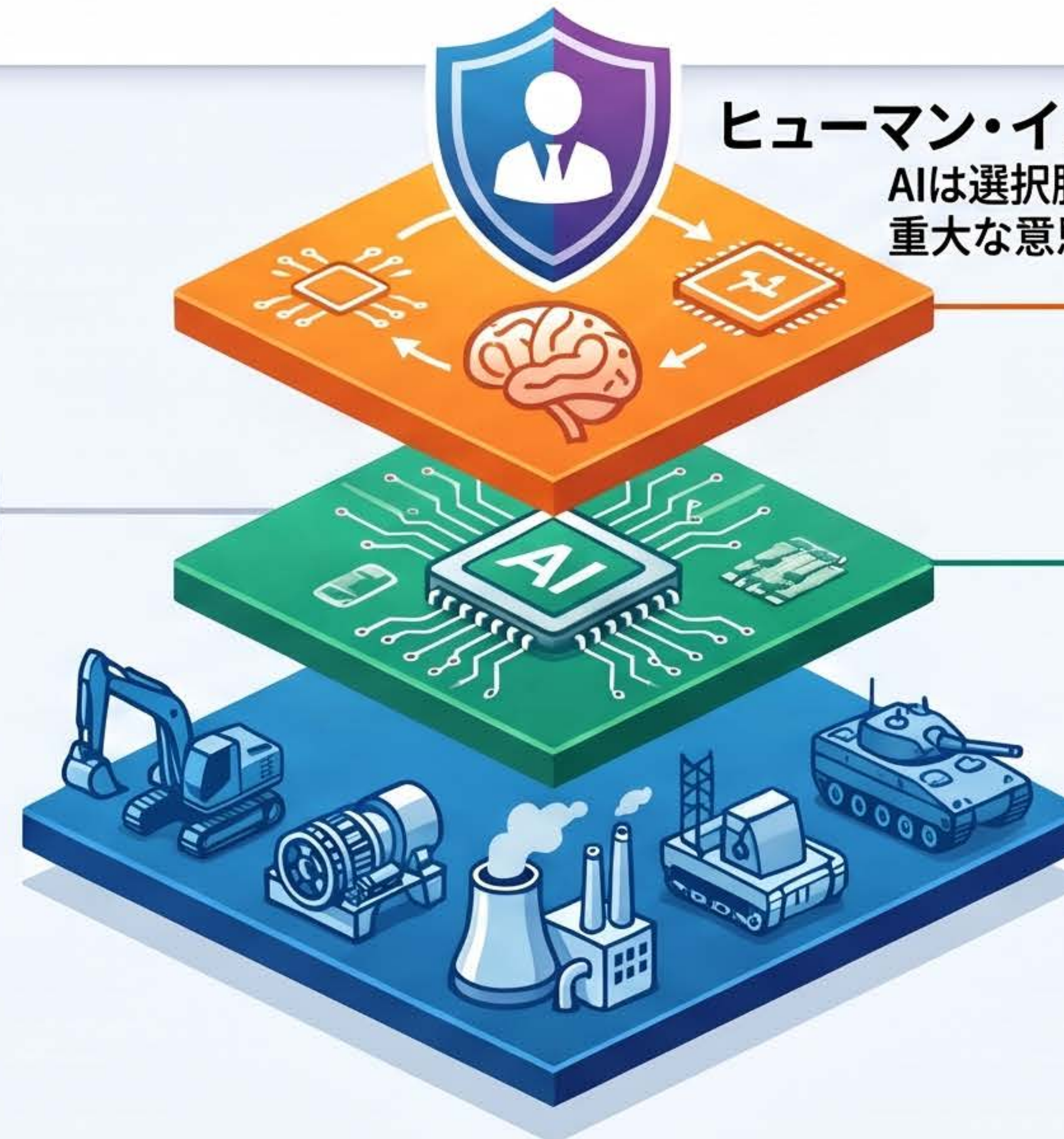


米Palantir等と異なり、物理ハードウェアと独自AI半導体の両方を保有する点が最大の強み。

5層の垂直統合アーキテクチャ

PFNのAI推論をMHIの制御則「ΣSynX」が検証し、安全限界を超えない確実な機械駆動を実現。

ミリ秒単位の
確定的な
自律制御



ヒューマン・イン・ザ・ループ (HITL) の厳守

AIは選択肢の提示と予測に徹し、武力行使等の重大な意思決定には必ず人間が介在する設計。

知能・制御

PLaMo 3.0 Prime (LLM) × ΣSynX (制御)

両社共同

計算基盤

MN-Core (独自AI半導体)

PFN

物理実装

三菱重工

DI VAULT (エッジDC) × 防衛・インフラ機器

物理アセットからAIチップまでの完全閉域化：現場のDI VAULT内で、MN-CoreチップとPLaMo 3.0が連携し、外部通信なしで自律制御。